

# 身延山大学における 訪問介護員養成研修のとりくみ —その内容と実際—

身延山大学 志 田 利  
松 木 本 隆  
一之瀬 美千子

## I. はじめに

本学の訪問介護員養成研修課程（2級）の開講については、本学が身延山短期大学からの改組転換を行った平成7年までさかのぼります。（当時はホームヘルパー2級）本学学生の取得資格の一つとして設置を考えていましたが、経費・講師・時間割等の兼ね合いから実施することはできませんでした。その後もカリキュラム委員会において3級課程の開設も何度も議題にあがりましたが、やはり同じ理由で実施することはできませんでした。しかし、平成12年に再び議題にあがり、本学学生ばかりではなく、身延町やその近辺の町民方も対象とした訪問介護員養成研修課程（2級）を開講してはどうだろうかとの結論に達しました。その後、身延町社会福祉協議会からの助言と協力を頂きながら、次のような経緯で実施することとなりました。

1. 身延町では2級課程を開講したことがない。
2. 身延町民からの要望が多い。
3. 身延町からの補助金の助成。
4. 土・日開講とし、職業をもっている人も参加できるようにする。  
（平成14年度より、身延山高校・身延高校の生徒さんにも門戸を開放）
5. 講師は、本学専任教員を主に行う。
6. 身延町内の施設での実習

特に開講にあたり、講師の先生方には本学の財政を鑑み、山梨県基準の講師料を大幅に下回る講師料でご承知頂き大変感謝しております。

## II. 準備の取り組み

本学で取得できる福祉関係の資格は、社会福祉主事の任用資格のみでありました。卒業生のなかで、福祉分野に就職する者もでてきました。その中でF君は自らの努力で、夏休み中に出身地でホームヘルパーヘルパー2級の講座を受け、資格を取得、その結果として希望した地元の特別養護老人ホームに就職することができるという成果をあげたのです。仏教学部で人間の心のあり様について学んだうえに、2級の資格も持っている、と本人の努力が認められ適正な人物と判断されたのです。

仏教を学んだ者が、その実践の場として福祉事業に活路をみいだすという一つの方向を受け止め、これを助けるために学内で二級ヘルパーの講座を取り上げてみようとの考えがうまれたのです。

このことに関心を持ち、実施計画をたて関係機関にはたらきかけたのが、当時の教務課・松木課長でありました。

学生に加えて地域の福祉向上に貢献する意味で地域の関心ある人々の参加も得られれば、と身延町及び身延町社会福祉協議会と連携を深めるなかで、三者の打合せの場をもつところまですすむのです。あわせて、山梨県及び山梨県社会福祉協議会との協議も行い、次第に形が整い具体化していくのですが、この具体化には教務課職員松木と一之瀬の献身が実を結んだ形なのであります。

### 1. 関係機関のアドバイス

松木課長がヘルパー2級講座を開くために、関係機関をたずねアドバイスをうけた内容の要点は、次のようなものであります。再三足を運んでの結果です。

#### (1) 山梨県社会福祉協議会からの助言

①定員 20名

②費用 60～70万円位（ほとんど講師代）

大学教授1万円 施設長クラス9千円 それ以外8千円（1時間あたり）

テキスト代6千円位 実習費1日千円は実費

③申請 山梨県へ毎年申請する

④実習

ホームヘルパー同行訪問（1日）は必ず開催場所と異なる市町村で行わなければならない。

⑤その他

1. 事務担当者の負担が大きい

2. あまりお奨めはしません

3. 必ず市町村の協力が必要である

(2) 山梨県福祉保健部長寿社会課からの助言

① 申請について

1. ホームヘルパー養成講座を始める2ヶ月前には申請
2. 申請は初年度に行い、次年度からは届出を行う。

② 本学開講科目との関連について

本学開講科目のホームヘルパー養成講座と互換させても良いが、県への申請は養成講座として養成講座の科目で申請してください。

(3) 身延町健康福祉課からの助言

前年度に『かんぱ』の補助をうけて、3級の養成をとりあげ実施した経験をもつ町からの助言である。

① 定員 30名

② 費用 250万円

全ての業者に委託したため、非常に高いが、全て『かんぱ』の補助でおこなった。

③ 本学への協力

1. 他町村での実習における協力(身延町が他の市町村へ協力依頼)
2. 身延町民に広く門戸を開くことにより、全体の費用の何%かは補助ができるかもしれない。(平成13年4月までに全体費用を算出して欲しい)

④ その他

1. 運営主体は身延山大学
2. 講師の依頼等の事務処理は全ては身延山大学
3. 開催場所は身延山大学
4. 身延町民に広く門戸を開いて欲しい
5. 土曜日開講が望ましいのではないか

(4) 学内での検討

① 対象について

1. 本学学生のためにのみ開講するか
2. 広く身延町民に呼びかけるのか

② 形式

1. 土曜日開講形式をとるのか
2. 本学の開講科目とリンクさせるのか

③ 特別講師について

1. 5名ほど特別講師を呼ばなくてはならない
2. 講師料について（山梨県社会福祉協議会に準じる）

〔資料 ホームヘルパー養成研修事業カリキュラム担当者案（2級）より〕

氏名	時間	1時間料金	講師料
施設	47	8,000円	376,000円
医者	11	10,000円	110,000円
婦長	3	8,000円	24,000円
合 計			510,000円

## 2. 実施にむけての打合せ

身延町、身延町社会福祉協議会、身延山大学、三者による打合せがもたれたのが平成13年6月17日。その内容は主なものあげると次のような内容で、三者の協力で実施の方向が固まっていくのであります。

### (1) 募集について

一般は身延町の広報誌に掲載（原稿締切6月末日 広報誌配布7月26日配布）

身延山大学生は学内掲示にて募集する（学内掲示6月27日）

受付窓口は身延山大学教務課

### (2) 事業主催について

身延町が主催で身延山大学に委託という形式をとりたい。

委託契約を交わすこととし、委託契約書は身延町社会福祉協議会の方で作成する。

### (3) 募集要項

定 員…30名（一般25名 身延山大学生5名）但し、一般の募集は受付20名で行い、定員になり次第締め切る

対 象 者…身延町在住の者及び町内の福祉施設に勤務している者

65歳以下の者で、心身ともに健康である者

3級過程を取得されていない方でも受講できる

訪問介護サービス事業に従事する者及び従事希望者

日 程…別紙を参照（時間割については確定ではない 講義時間は9:00～16:30）

実 施 場 所…身延山大学 かじか寮 みのお荘 身延町社会福祉協議会

受 講 料…10,000円（テキスト代 実習費込み）当日徴収

昼食・交通費は各自負担

申 込 方 法…往復ハガキにて下記の事項を記入して、身延山大学「訪問介護員養成研

修事務局」まで申し込む。(ハガキのみの受付)・住所・氏名・生年月日・年齢・性別・電話番号・職業・勤務先・3級課程取得の有無

申込期間…平成13年7月27日(金)～平成13年8月9日(木)

身延山大学必着(当日必着まで)

修了証の交付…全課程を修了した者には、身延山大学名で2級課程修了書が交付される。(開校式に授与)

全課程を修了することとし、欠席した場合は修了証書は交付されない。その場合の代金は返却されない。

(4)開・閉講式について

初日に開校式を行う(8:20分受付 8:30から開校式)

閉講式も行う(実習修了後の2月上旬を予定)

(5)予算について

補助金…身延町より40万、身延町社会福祉協議会より10万、  
合計50万

補助内容…講師人件費分

受講者の保険(ボランティア保険 1人 300円)

実習費の不足分

### Ⅲ. 2級講座の開講

#### 1. 平成13年度

定員30名をこえる申込みをうけて、別紙(1)のとおり山梨県知事の正式指定も受け、別紙(2)のカリキュラムで開設の運びとなりました。

内訳として、本学学生は5名、身延町社会福祉協議会の3級資格保持者から5名、町内施設職員5名などではじまったのであります。9月8日の開講式には、身延町社会福祉協議会雨宮局長のあいさつをうけ、別紙(3)の日程で着実に進められて、一日も休まず無事修了証書の交付を受けた者が29名でした。実習先などに再三足を運んだ一之瀬主事の話では、各関係機関とも好意的に受け止めてくれ、町の福祉のため大学が貢献してくれると評価される声とともに万全の準備をされての実習成果をあげたのでした。

平成14年9月15日(日)修了証書交付と閉講式がひらかれ、後、会費を持ちあつての反省会が持たれたのですが、席上、このつながりを大事にしてこれからも研修を重ねるために組織をつくろうと提案がなされたのであります。

全員で会結成となり、会の名を「志田会」とし、会長に望月 寛氏を選出、以後、会合

を持ち事例発表会や救助法の訓練など確かな活動を展開しているのです。

## 2. 平成14年度

この成果をふまえ、平成14年度は定員を40名とし高校にも呼び掛け、身延高校・身延山高校生の参加もうけて活気のある講習会となったのであります。

修了生による組織も1期生と共に活動することとなり、引き続き研修を重ねる体制ができたことは成果といえましょう。

## IV. 1級課程開設へ

平成15年度は、前の2回の2級講座修了者を対象として、1級講座開設へと準備がすすめられました。松木課長の関係機関との調整、一之瀬主事の実習先等との連帯強化を重ねるなかで「身延町社会福祉協議会として応援しましょう」と前向きの姿勢が示されレールにのるのであります。研修内容も2級の130時間にくらべ230時間と大幅に充実強化される形で、将来「ヘルパーのリーダー」となる実力を備え、地域福祉の先達となる福祉人材の養成へとふみだしていく形になりました。5月10日の開講式には身延町社会福祉協議会の町田会長、雨宮局長のはげましをいただいて順調にすすめられています。1級のカリキュラムは別紙(4)のとおり、この受講生達のおもいは、別紙(5)のように確かな考えをもって参加されており、受講生も12名と制限したなかで熱心な学習が、土・日曜日の休日をあてる形で各に職場をもちながら懸命に出席参加を重ねている状況であります。

## V. 研修の効果

学生の資格を取得する機会を豊かにすることにあわせ、大学の住所地である地域への貢献という面からも、大学としての生涯学習活動推進の視点からもこのヘルパー養成講座は更に充実させて継続実施していくことがのぞまれます。地域福祉人材の養成に取り組むことも視野に入れて検討していきたいものです。

1. 大学が地元のために良いことをころみしてくれる、と地域の方々の評価は高いものがある。

高齢化率が高まるなかで、家族に高齢者をかかえる人々の手助けという意味からも、地域のなかで介護の網の目を豊かにするためにも、単に就労の機会を提供するというだけではないプラス効果をもつ事業と考えられる。

2. 修了生による勉強の場「志田会」の活動を側面から応援し、地域におけるボランティア活動などの有力な人材となっただけのためにも、有効な存在となる可能性をもってい

る。

更に、修了生のなかで社会福祉協議会登録ヘルパーとして活躍されている方に加え、地域の施設やデイサービスセンターなどにボランティアとして働き続けている方々も多い。現に身延町ボランティア連絡会にも、志田会(望月 寛会長)11名が施設ボランティア、配食ボランティアの活動に取り組んでいると評価され、有力なメンバーとなっているのである。

3. 学生の受講生がボランティアグループ「マーヤの会」の有力メンバーとして活動を深めるなど、学内にも学生の自主活動の展開に一つの役割をみせていることは成果といえる。

地域の特別養護老人ホームや身体障害者療護施設に訪問する者、障害者スポーツ大会に補助者として参加協力するものなどがでている。こうした活動をとおり地域の関係をより深める一助となるきっかけをつくっていることは大事にしたい点である。

4. 大学の教職員、特に松木・一之瀬、両氏の懸命な活躍、ボランティア的な取り組みによっているところが大きい。土・日曜日を使い、大学構内でこうした講座を開いていくためには、こうした影の力が大きい役割をになっている。一丸となって前向きに事業展開をはかろうとする使命感が大きくはたらいっていることは付記しておきたい。

## VI. おわりに

本学は、身延山久遠寺のおひざもとに所在することでもあり、専門に法器養成、お坊さんの養成にあたることとのイメージがあります。しかし現実是在家の出身で仏教を学び、それを社会のなかで活かそうと考えて入学してくる学生も増えているのであります。

これらの学生に、仏教を学んだことを大事にして社会活動に入るために備えをするお手伝いが、大学としての役目のひとつになりましょう。行学二道を唱えるところからも、具体的には人間を相手にする領域で活躍できる道をひらくこと、特に福祉の分野は仏教の心を活かすにふさわしいものと考えられます。さらには、将来僧職についた場合にも、寺院の所在する地域の人々に具体的に役立つ方法の一つとして活用できる、ということなのであります。高齢者がどの地域でも増えているとき、介護の面での知識技術をもっていれば、頼りになるお坊さんとして喜んでもらえる可能性がふえるのです。この点からも、ヘルパー講座は有効な学びであるといえましょう。こうした考えからも、学生に自ら力をつけるためにも、参加する機会として活用を呼びかけていきたいものであります。

更に、地域の方々にも大学が存在することが役立っていると思ってもらえるために、生涯学習の一環としてもこの講座を地域にひらいて活用していただく。そして、高齢者も安心して暮らせる介護サービスのゆきとどいた地域福祉の街づくりをしていくことにつなげていきたい。

特に社会福祉協議会との連帯を深めるなかで、こうした機会をより多彩に提供することが大事であると考えます。

講座をひらいて三年目、学生からも地域からも期待されていることを大切に、教職員が力をあわせて、充実強化の方向をめざしていければ、と願っているところであります。



別紙(1)

### 訪問介護員養成研修事業指定申請について(2級)

介護保険法施行令(平成10年政令第412号)第2条の2項に基づき、訪問介護員養成研修事業者としての指定を受けるため、下記の内容とおり山梨県知事に申請し(平成13年6月6日付)、平成13年6月18日付で、山梨県知事より訪問介護員養成研修事業(2級課程)の指定養成研修事業者として、学校法人身延山学園が指定された。

1. 申請者の氏名及び住所

〒409-2597

山梨県南巨摩郡身延町身延3567

学校法人身延山学園 理事長 伊藤通明

T E L 05566-2-0107

2. 研修の名称及び課程

【身延山大学訪問介護員養成研修(2級課程)】

3. 事業所の所在地

〒409-2597

山梨県南巨摩郡身延町身延3567

学校法人身延山学園 身延山大学

T E L 05566-2-0107

4. 実施要項

①実施目的

訪問介護サービス事業に従事する者の基本的研修課程とし、福祉サービスの基本視点の理解、業務内容やサービス利用者に関する知識及び具体的技術について学び、必要な知識等・在宅介護の技術を有する訪問介護員を養成することとする。

②研修事業の名称と実施場所

【身延山大学訪問介護員養成研修(2級課程)】 会場 身延山大学

③研修期間

講義：平成13年9月8日（土）から平成13年12月3日（日）まで

実習：平成14年1月8日（金）から平成14年2月28日（日）まで

④研修カリキュラム（別紙(2)参照）

⑤研修修了の認定方法

研修修了者に対し、修了証明書を交付する。訪問介護員養成研修修了者名簿と訪問介護員養成研修修了者個人情報の提供についての同意書を添え、県知事に提出する。

⑥受講対象者

身延山大学生及び身延町住民等

訪問介護サービスに従事する者及び、訪問介護サービス従事希望の者

⑦受講手続き（募集要項）

1. 受講定員は30名（先着順）

2. 身延山大学内掲示板、身延町広報誌等に掲載し、募集する

3. 申込先 身延山大学教務課

4. 主催 身延山大学 協賛 身延町・身延町社会福祉協議会

⑧受講料 10,000円（テキスト代等）

5. 講師氏名、履歴、担当科目（別紙(2)参照）

6. 実習施設として利用する施設の名称、所在地

①〒409-2524

山梨県南巨摩郡身延町身延3637

社会福祉法人深敬園 身体障害者療護施設かじか寮

T E L 05566-2-1134

②〒409-2531

山梨県南巨摩郡身延町梅平2483番地122

社会福祉法人身延山福社会 介護老人福祉施設みのぶ荘

T E L 05566-2-3131

③〒409-2531

山梨県南巨摩郡身延町梅平1602

社会福祉法人 身延町社会福祉協議会

T E L 05566-2-0459

## 平成13年度 訪問介護員養成研修2級課程講座カリキュラム概要

講義 58時間+実技講習 42時間+実習 30時間=合計 130時間

種別	区分	時間	教科	時間	担当	備考	
講 義	社会福祉の基本的な理念及び福祉サービスを提供する際の基本的な考え方	6	福祉理念とケアサービスの意義	3	志田 利		
			サービス提供の基本視点	3	志田 利	3級免除	
	老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービス並びに社会保険制度	6	老人福祉の制度とサービス	3	志田 利		
			障害者(児)福祉の制度とサービス	3	志田 利		
	訪問介護	5	ホームヘルプサービス概論	3	志田 利	3級免除	
			ホームヘルパーの職業倫理	2	志田 利		
	老人及び障害者の疾病、障害等	14	障害・疾病の理解	8	小川 純		
			高齢者、障害者(児)等の心理	3	高橋 一公		
			高齢者、障害者(児)等の家族の理解	3	高橋 一公		
	介護技術	11	介護概論	3	志田 利	3級免除	
			介護事例検討	4	志田 利		
			在宅・福祉用具に関する知識	4	小川 純		
	家事援助の方法	4	家事援助の方法	4	志田 洋子	3級免除	
	相談援助とケア計画の方法	4	相談援助とケア計画の方法	4	志田 洋子		
	医学等の関連する領域の基礎的な知識	8	医学の基礎知識 I	3	関戸清貴		
			在宅看護の基礎知識 I	3	小川 純		
			リハビリテーション医療の基礎知識	2	深沢 昭		
	実 習	福祉サービスと提供する際の基本的な態度			4	高橋 一公	3級免除
				介護技術	30	小川 純	
訪問介護計画の作成等				5	志田 洋子		
レクリエーション				3	志田 洋子	3級免除	
実 習	介護実習	16	かじか寮・みのぶ荘				
	ホームヘルパーサービス同行訪問	8	社会福祉協議会				
	老人ディサービスセンター等のサービス提供現場の見学	6	みのぶ荘	3級免除			
合 計				130			

■講師紹介

小川 純 (おがわ じゅん)

山梨県立看護大学短期大学大学部実習助手、看護婦 地域看護活動論の科目を担当

志田 利 (しだ とおる)

身延山大学教授、社会福祉士 社会福祉原論、生涯学習概論等の科目を担当

志田洋子 (しだ ようこ)

東海福祉専門学校及び、駿河看護専門学校非常勤講師 社会福祉概論等の科目を担当

関戸清貴 (せきど きよたか) 財団法人 身延山病院 院長

高橋一公 (たかはし いっこう) 身延山大学専任講師 発達心理学、家庭教育等の科目を担当

深沢 昭 (ふかさわ あきら) 佐野外科・整形外科医院勤務、理学療法士

## 平成13年度訪問介護員養成研修2級課程講座 時間割

回	時間	時 限		1 時限目	2 時限目	昼休み 12:05～ 12:35	3 時限目	4 時限目	5 時限目
		月 日	曜	9:00～10:30	10:35～12:05		12:35～14:05	14:10～15:40	15:45～17:15
1	6	9月8日	土	【老人福祉の制度とサービス】 (3時間 志田)			【障害者(児)の制度とサービス】 (3時間 志田)		
2	6	9月9日	日	【福祉理念とケアサービスの意義】 (3時間 志田)			【サービス提供の基本視点】 (3時間 志田) ★		
3	5	9月15日	土	【ホームヘルプサービス概論】 (3時間 志田) ★			【ホームヘルプサービスの職業倫理】 (2時間 志田)		
4	7.5	9月16日	日	【基本介護術】 (3時間 小川)			【基本介護術】 (4.5時間 小川)		
5	7.5	9月30日	日	【基本介護術】 (3時間 小川)			【基本介護術】 (4.5時間 小川)		
6	6	10月6日	土	【障害・疾病の理解】 (3時間 小川)			【障害・疾病の理解】 (3時間 小川)		
7	4	10月20日	土	【障害・疾病の理解】 (2時間 小川)			【リハビリテーション医療の基礎知識】 (2時間 深沢)		
8	6	10月21日	日	【医学の基礎知識】 (3時間 関戸)			【在宅看護の基礎知識Ⅰ】 (3時間 小川)		
9	7	10月27日	土	【家事援助の方法】 (4時間 志田洋子) ★			【レクリエーション体験学習】 (3時間 志田洋子) ★		
10	7	10月28日	日	【介護概論】 (3時間 志田) ★			【介護事例検討】 (4時間 志田)		
11	8	11月10日	土	【相談援助とケア計画の方法】 (4時間 志田洋子)			【在宅・福祉用具に関する知識】 (4時間 小川)		

12	6	11月17日	土	【高齢者、障害者（児）等の心理】（3時間 高橋）		【高齢者、障害者（児）等の家族の理解】（3時間 高橋）	
13	5	11月18日	日	【ケア計画の作成と記録】（3時間 志田洋子）		【ケア計画の作成と記録】（2時間 志田洋子）	
14	5	11月23日	金	【共感的理解と基本的態度の形成】（3時間 高橋）★		【共感的理解と基本的態度の形成】（1時間 高橋）★	【実習現場事前説明】（1h）
15	7.5	12月1日	土	【基本介護術】（3時間 小川）		【基本介護術】（4.5時間 小川）	
16	7.5	12月2日	日	【基本介護術】（3時間 小川）		【基本介護術】（4.5時間 小川）	
	101	16日間		合 計			
実習	16	2日間		介護実習（かじか寮・みのぶ荘）■ 1月8・9・10日 11・12・13日 15・16・17日 18・19・20日			
	8	1日		ホームヘルパー同行訪問（身延町社会福祉協議会）			
	6	1日		在宅サービス提供現場見学（みのぶ荘）★ ▲			
	30	4日間		合 計			

★は3級課程修了者の免除科目

■は特別養護老人ホーム等の介護職員等として1年以上の実務経験を有する者の免除科目

▲は老人デイサービス事業を行う施設の介護職員の免除科目

## 平成15年度 訪問介護員養成研修(1級課程)カリキュラム概要

講義84時間+実技講習62時間+実習84時間=合計230時間

種別	区分	時間	教科	時間	担当
講義	老人保健福祉に係る制度及びサービス	10	老人福祉の制度とサービス	4	志田 利
			老人保健・医療の制度とサービス	3	志田 利
			老人保健福祉の動向	3	志田 利
	障害者福祉に係る制度及びサービス	7	障害者(児)福祉の制度とサービス	4	志田 利
			障害者(児)福祉の動向	3	志田 利
	社会保障制度	3	社会保障制度	3	志田 利
	介護技術	28	介護技術の展開	4	小川 純
			痴呆性高齢者の介護の実際	4	志田洋子
			障害を持つ児童及び知的障害者の介護の実際	4	志田洋子
			身体障害者の介護の実際	4	小川 純
			精神に障害を持つ人々への介護の実際	4	志田洋子
			困難事例検討	4	志田洋子
			在宅ターミナルケアの実際	4	小川 純
	主任訪問介護員が行う他の保険医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携	20	ケアマネジメント	4	志田洋子
			介護保険制度とチームケアのあり方	4	志田洋子
			チームケアの実際	4	志田洋子
			指導業務の必要性と方法	4	志田洋子
			カンファレンスの持ち方と事例検討の方法	4	志田洋子
	医学等の関連する領域の基礎的な知識	16	医学基礎知識Ⅱ	8	関戸清貴
			在宅看護の基礎知識Ⅱ	4	小川 純
心理学的援助方法の基礎知識			4	高橋一公	
計				84	
実技	居宅介護支援		6	小川 純	
	介護技術		30	小川 純	
	処遇が困難な事例		20	小川 純	
	福祉用具の操作方法		6	小川 純	
	計		62		
実習	介護実習				
	痴呆性高齢者等処遇困難事例対応演習		24	みのぶ荘・かじか寮	
	デイサービスセンター実習		12	みのぶ荘	
	チームケア実習		16	身延町社協	
	訪問看護同行訪問		8	訪問看護ステーション	
	在宅介護支援センター職員との同行訪問		8	身延町在宅介護センター	
	事例報告の検討		8	身延山大学	
	福祉事務所、保健所等の老人保健福祉に係る公的機関の見学		8	身延町保健センター	
計				84	
合 計				230	



●講師紹介

小川 純(おがわ じゅん)

山梨県立看護大学短期大学部実習助手 看護師

志田 利(しだ とおる)

身延山大学教授、社会福祉士 社会福祉原論、生涯学習概論等の科目を担当

志田洋子(しだ ようこ)

東海福祉専門学校及び駿河看護専門学校非常勤講師、社会福祉士 社会福祉概論等の科目を担当

関戸清貴(せきど きよたか) 財団法人身延山病院勤務 医師

高橋一公(たかはし いっこう) 身延山大学助教授、精神保健福祉士 発達心理学、家庭教育等の科目を担当

## 身延山大学訪問介護員養成研修受講生のおもい

- ① 信仰するものが集い、助け合い一緒に暮らせる法華村をつくりたい。そこで私ができることは、老人の介護のための専門知識が必要と思った。(大場治子)
- ② 母の介護から始まった今のヘルパーの仕事で、介護の本質を見失いかけている自分がいました。もう一度、しっかり勉強させてもらえる良い機会だと思い応募しました。(片田由美子)
- ③ 町社協のヘルパーとして働かせて頂き、もっと利用者の立場で考え、生活援助、身体介護そして心の支えになれるように学びを深めたい。(栗田かね子)
- ④ 子どもを預け共働きをした私、お世話をうけ助けられた。それを今、働くお母さん方にお返しできるような仕事ができたらと考える。老親を抱える身としても、この学びを大切にしたい。2級の資格を取り、大変な仕事だと思って、更に学習を深めなければと受講した。(佐野賀津子)
- ⑤ 一人ひとりのニーズにあわせてのサービス提供が大事だと、町社協のヘルパーとして働きながら思います。精神面のケアもできるよう勉強したいと思い申請しました。(堀池幸枝)

なぜ  
私は  
ヘルパー  
一級受講を  
めざしたか

- ⑦ 介護職の体験から、自分に合った仕事だと思っています。一級をがんばりケアマネも取り、ずっと働いていきたい。(田中伸佳)
- ⑧ 老人ホームで笑顔を大事に勤務しています。在宅で過ごす方にも役立てる知識を習得したいと考え、家族の理解をえてチャレンジします。(千須和一二三)
- ⑨ ヘルパーの仕事の奥深さを知り、相手にあった介護をめざし、末長く、この仕事ができるよう受講を決めました。(望月千香子)
- ⑩ 病院で介護の仕事をし、この役割の大事さ必要性を実感しています。一生の仕事としてがんばりたいと希望しました。(望月千歳)
- ⑪ 将来、福祉関係にすすみたい。この講座で知識技術を身に付け役立つ人間になりたい。2級で修得した事項をさらに深めたい。(松浦嘉之)
- ⑫ 2級で実習をして、働いている人の多くが女性で、男性が少ないことを知りました。ベットの動かす時等、男性が必要だと思いました。一級を取り施設で役に立ちたい。(望月恵太)
- ⑥ ヘルパーとして7ヶ月、介護の難しさ厳しさに日々悩んでいます。利用者、一人ひとりにあった対応をしていくためにも、もっと勉強し、自分自身を向上させていきたい。(木内千鶴)

## 参考資料

## 平成13年度 身延山大学訪問介護員養成研修(2級課程) アンケート結果報告

身延山大学 教務課内  
訪問介護員養成研修事務局

事前に受講者に配布し、平成14年2月23日(土)の閉講式に回収。回答者は22名。

※なお、受講者は30名。修了者は29名。 修了者…女性21名、男性8名。

年齢別… ①10代(1/29) ②20代(6/29) ③30代(4/29) ④40代(4/29)  
⑤50代(9/29) ⑥60代(5/29)

1. 性別 ①男性(2/22) ②女性(20/22)
2. 年齢 ①10代(0/22) ②20代(1/22) ③30代(3/22) ④40代(3/22)  
⑤50代(10/22) ⑥60代(5/22)
3. 開催時期・日程は適当ですか。 ①適当である(18/22) ②適当でない(4/22)  
②に○を付けられた方は、希望する時期・時間等をお書きください。
  - ・ もう少し短期間の方が良いと思う(34才男性)
  - ・ 春から夏にかけてが良いと思う。(58才女性)
  - ・ 暮れから正月にかかる為、もう少し早い時季にしてほしい。一日の時間に余裕が  
ない大変だった。(53才女性)
  - ・ 年度はじめからが良いと思います。少し余裕をもって日程を組んだらと思います。  
(48才女性)
4. 講義内容について ①分かりやすい(16/22) ②普通(5/22) ③難しい(1/22)
5. この講座を受講した理由をお書きください。
  - ・ 介護のボランティアをしているので、少しでも勉強して役立てたいと思いました。  
(64才女性)
  - ・ 人の手を必要としている人の為に、少しでもお手伝いできればと思っている。自分  
もいつかは介護される立場になるので、知識が欲しかった。(61才女性)

- ・ 高齢化社会の現在、福祉関係の仕事は注目されているので、以前から2級の資格を取りたかった。(47才女性)
- ・ 色々なことを勉強したかった為。(34才男性)
- ・ 福祉について学び、基本・介護技術を身につけるようにする為。(39才男性)
- ・ ヘルパーの仕事をさせてもらっているので、より良い仕事をする為に受講した。(38才女性)
- ・ 資格を生かせる事と仕事上必要と思った。(58才女性)
- ・ 地域に身体の不自由な方がいらっしやるので、これから地域の役に立てたらと思います。(64才女性)
- ・ 訪問介護員をしているが、1対1で利用者の方とのかかわりあいの中で、自分の知識や経験がもっと必要だと感じたからです。(40才女性)
- ・ 現在3級のヘルパー、今よりサービスの向上をめざして受講した。(50才女性)
- ・ 高齢者が多い為、少しでも人の役に立ちたい。(64才女性)
- ・ 福祉関係の仕事に就きたい。(53才女性)
- ・ 両親を介護して見送ったが、介護を思うようにできなかったのが悔やまれ、もっと勉強したいと思った。これからは、ボランティアをしていきたい。(50才女性)
- ・ 高齢化社会に向けて勉強しておく必要があるとおもった。(52才女性)
- ・ パーキンソン病の義母の介護の為。(61才女性)・身体介護の手助けがしたかった。(53才女性)
- ・ これから老人が多くなるので、老人の心を理解したいため受講した。(55才女性)
- ・ ヘルパーをしている友達からすすめられて受講した。(58才女性)
- ・ 義母が障害者3級、91才、86才の両親の介護の為。(57才)
- ・ 年寄りと同居の為、勉強したかった事もあるが、ヘルパー3級を取得したので、2級も取りたかった。(51才女性)
- ・ 資格を持っていれば、今後いつでも働けると思った。また、両親を介護することになったとき役立つと思った。(24才女性)
- ・ 今後のことも考え、自ら介護の知識を学ぶことの大切さを感じたから。(48才女性)

#### 6. 感想をお書きください。

- ・ 身体で体験できる時間を多く欲しいと思いました。(64才女性)
- ・ 老人や病人と会ったとき優しく接することができるようになった。身体が不自由な人に会うのが気が重かったが、そういうことがなくなり、一生懸命生きているのだと思えるようになった。(61才女性)

- ・ この研修に参加して、多くの人と交流を持つことができ、本当によかった。資格取得を考えて受講している人と、仕事を考えて受講している人との意識の差が歴然だった。(47才女性)
- ・ 今後の人生において大変役立つ研修だった。(34才男性)
- ・ 福祉の理念を学ぶことができたり、介護の基本を見直すことが出来た。(39才男性)
- ・ 初心に戻る事が大切だと思いました。(38才女性)
- ・ 途中休みの日を設けていただき受講しやすかった。講義内容・実技指導等、講師の先生方には、素晴らしいご指導で感謝申し上げます。(58才女性)
- ・ 受講できて良かった。もう一度初心に戻って、自分の道を進みたいと思います。(64才女性)
- ・ 土、日曜日に開講されたことはとてもありがたく思いました。講座の内容はテキストにのっとっていながらも、他国の福祉のお話や実際に経験されたことなど、とても興味深いものでした。(40才女性)
- ・ 本の通りではなく、身のあるお話が聞けて良かったです。土、日曜日の講義は本当に助かりました。(50才女性)
- ・ 色々勉強ができて本当に良かったです。(64才女性)
- ・ 若い人と一緒に受講できて良かったです。(53才女性)・楽しく受講できました。(50才女性)
- ・ とても勉強になり、受講して良かったと思いました。(52才女性)
- ・ もう何年も机に向かって勉強することもなく、最初は不安でしたが、先生方の熱心な講義のおかげで研修を修了することができました。ありがとうございました。(61才女性)
- ・ 自宅から近い所で受講させていただきありがたく思いました。分かりやすかった。(53才女性)
- ・ 勉強になることが多かった。(55才女性)
- ・ この年齢になって大学で有意義な講座が受講できた事、本当に嬉しく思いました。(58才女性)
- ・ もう少し実習時間が多く欲しかったです。(57才女性)
- ・ ペーパーの上での勉強より、実践をしてみて、この職業の素晴らしさと又大変さ、奥深さを実感しました。(51才女性) ・ もう少し実技に時間をかけて欲しかった。(24才女性)
- ・ 有意義な時間を持つことができました。講義も楽しく受講でき幸せに思います。(48才女性)

7. 情報交換会を予定しておりますが、開催時期はいつ頃がよろしいですか。また、どんな内容なものがよろしいですか。

- ①開催時期 ・ 4月～5月頃（4/22） ・ 10月～11月頃（3/22） ・ 2月頃（1/22）  
 ・ 冬以外（1/22） ・ いつでも良い（7/22） ・ 回答なし（6/22）
- ②内 容 ・ 自宅介護について（2/22） ・ 受講生のその後（2/22） ヘルパーとして講義と実践の違いについて（1/22） 介護の実務や法令について（1/22） ・ 回答なし（16/22）

8. 今後、訪問介護員及び福祉関係者を対象とした講演会を開催したいと思います。開催時期はいつ頃がよろしいですか。また、講演内容はどんなものがよろしいですか。

- ①開催時期 ・ 4月～5月頃（3/22） ・ 6月頃（1/22） ・ 10月～11月頃（5/22）  
 ・ いつでもよい（6/22） ・ 回答なし（7/22）
- ②講演内容 ・ 介護の体験談（6/22） ・ 福祉について（1/22） ・ ボケにならないためには（1/22） ・ 老人とのかかわりについて（2/22） ・ 他国の介護の話（1/22） ・ 実技指導（1/22） ・ ヘルパーと利用者のかかわりについて（1/22） ・ 回答なし（9/22）

9. 今後要望すること。自由にお書きください。

- ・ これからは福祉の仕事が重要になるので、このような講座を続けていただきたい。（64才女性）
- ・ 実習に参加させていただいて、ボケ老人の多いのに驚きました。ボランティアでひたすら人の話を聞くということができたらいいなと思います。（61才女性）
- ・ 教科書の勉強も大切ですが、実際に現場へ出た時の練習が多くあった方がよい。（47才女性）
- ・ 土・日曜日にやっていただき大変良かったです。これからも続けていただきたい。（38才女性）
- ・ 講師の先生方、事務局にお礼申し上げます。（58才女性）
- ・ これからも大勢の方に介護の勉強をしていただきたいと思います。（64才女性）
- ・ 安い受講料で飲み物の準備までして下さりありがとうございました。介護の中に慈悲の心を入れて活動して参ります。（50才女性）
- ・ 2級課程修了証を受けとることになり、ありがとうございました。（53才女性）
- ・ これからも続けていただき、多数の方が勉強してもらえれば良いと思います。（52才女性）

性)

- ・ これからも2級課程講座をお願いします。(53才女性)
- ・ このような講座をできるだけ設けて多くの人に受講させてあげて欲しいと思います。  
(58才女性)

以上

## 平成14年度 身延山大学訪問介護員養成研修（2級課程）アンケート結果報告

身延山大学 教務課内

訪問介護員養成研修事務局

事前に受講者に配布し、平成14年9月15日（日）の閉講式に回収。回答者は26名。

※なお、受講者は42名。修了者は35名。 修了者…女性24名、男性11名。

年齢別… ①10代（5/35） ②20代（9/35） ③30代（4/35） ④40代（11/35）  
⑤50代（3/35） ⑥60代（3/35）

1. 性別 ①男性（6/26） ②女性（19/26）
2. 年齢 ①10代（2/26） ②20代（5/26） ③30代（3/26） ④40代（10/26）  
⑤50代（3/26） ⑥60代（3/26）
3. 開催時期・日程は適当ですか。 ①適当である（24/26） ②適当でない（2/26）  
②に○を付けられた方は、希望する時期・時間等をお書きください。  
・夏をはずしてほしい。（48才女性） ・10月以降（65才女性）
4. 講義内容について ①分かりやすい（9/26） ②普通（16/26） ③難しい（1/26）  
④その他 ・実務の時間をもう少しほしかったと思った。（59才女性）  
・勉強になった。（42才女性）  
・テキストを使用しない講義があった。（22才女性）
5. この講座を受講した理由をお書きください。
  - ・ 自分の人に対する視点を変えたかったため。（28才女性）
  - ・ 将来の為、少しでも人の役に立つ職業につきたいと思ったから。（18才女性）
  - ・ 将来的に3級がヘルパーとして摘要しなくなるので。（48才女性）
  - ・ 今後の自分に必要だと思ったため（46才女性）
  - ・ 自分が病気の為、介護する人の気持ち等を理解しようと思って。（47才女性）
  - ・ 人のために役立ちたい。（64才女性） ・資格を取得したかった。（46才女性）



- ・ 就職が決まっていたので、お年よりの為、仲間の為そして自分の為に介護の勉強をしておきたかった。(59才女性)
- ・ 亡くなった祖母を母が介護している様子を見ていて、勉強して資格を取りたかった。(42才女性)
- ・ 介護に興味を持ったから。(18才男性) ・ 将来資格を持てれば役立つので。(20才男性)
- ・ 将来必要になるからです。(20才男性) ・ ヘルパーの仕事をしよと思うているので。(50才女性)
- ・ 仕事を辞めて、家庭に老人が居る為(48才女性)・ 本当の介護とは何か知りたかった。(63才女性)
- ・ これからの社会には必要とされてくる資格であったから。(21才男性)
- ・ 将来この仕事をする為。(46才女性)
- ・ 自分でも興味があったし、母親にすすめられたから。(32才女性)
- ・ 実父よ主人の両親が高齢化しているため。このような職学について学び社会の為に役立ちたい。(52才女性) ・ 福祉関係の仕事に興味があったから。(22才女性)
- ・ 両親の為。福祉に関心があった。(35才女性)・ 家族にパーキンソン病患者が居るので(45才女性)
- ・ 将来、福祉関係施設で仕事をしたいと考えている。(42才女性) ・ 就職に有利なので(43才女性)
- ・ 仕事をさかしたかった。(37才女性)

## 6. 感想をお書きください。

- ・ 実習は大変だったけど、自分の知らない世界が見えてとても勉強になった。(18才女性)
- ・ ヘルパーとして仕事をもう少し伝えてもらいたかった。(48才女性)
- ・ 実り多い学習であり、有意義に過ごせて自分の中では満足しています。(46才女性)
- ・ 介護員とは非常に体力のいる仕事だとつくづく感じた。福祉について少しでも理解することが出来た。これで終わることなく学習を続けていきたいと思った。(47才女性)
- ・ 講座を修了したから良いのではなく、これからがスタートです。(64才女性)
- ・ 単に資格を得るだけでなく、大変勉強になりました。(46才女性)
- ・ 大勢の仲間と楽しく又緊張した時間を過ごすことが出来、とても幸せでした。同行訪問の時、利用者が快く協力して下さったことが嬉しく、感謝しています。(59才女性)

性)

- ・ 生生方も皆さんもやさしくて研修が終わる頃、友達ができ、すごく楽しかった。(42才女性)
- ・ とても良かった。(18才男性) ・ 実習は初めてのことばかりで緊張した。(20才男性)
- ・ ほとんどが初めてだった為、難しいこともありました。(20才男性)
- ・ 同じ志を持った集まりだったので、その中で友達もでき楽しい期間だった。(50才女性)
- ・ 講義はつらかったけど勉強になりました。(48才女性)
- ・ 介護の実態を知ることができた。これからはもっと年寄りの人格を尊重していきたい。(63才男性)
- ・ 各テーマごとに専門の先生がきて教えていただけたので、実際の現場の話等、教科書の内容より解りやくとても充実した授業であったと思う。(21才男性) ・ 実習を多くしてほしかった。(46才女性)
- ・ 十分に本を読まなければと思いつつ、勉強不足に終わってしまったのと、実習を沢山して身体で覚えるようにさせて頂きたかったと思います。(65才女性)
- ・ ホームヘルパー2級の講座を受けておもしろいやりが大切だと思いました。実習してみると介護するのは大変なことが分かった。講座を受けて良かったです。(32才女性)
- ・ 実習を行ってみてヘルパーさん、施設職員の皆さんが本当に勤労の仕事にもかかわらず楽しんで仕事をテキパキとしておりました。人を相手ということで実習がとても大変でした。(52才女性)
- ・ 無事やり終えて本当に良かったと思っています。これから資格をどのように活かせるかは不明ですが、悔いがないようにしたいと思います。(22才女性)
- ・ 学校に通うことが久しぶりだったので色々な面で刺激になった。講義は短い時間で色々な先生方の話が聴けて良かったと思う。実習は実際に体験する事は大変だったが楽しく身について実感が湧いた。(35才女性)
- ・ 心構えが不十分であった。講師の方々のご苦勞を思うと熱意を持って臨むべきであった。(45才女性)
- ・ 全般的に科目ごとの時間が足りなく急ぎ足だったような気がしました。但し講師の工夫をこらした講義にあきることなく集中出来大変感謝しています。(42才女性)
- ・ 飲み物等、休憩時間にホッとできる空間をいつもありがとうございました。(43才女性)
- ・ 大変よい勉強になりました。(37才女性)

7. 情報交換会を予定しておりますが、開催時期はいつ頃がよろしいですか。また、どんな内容のものがよろしいですか。

- ①開催時期 ・ 4月～5月頃(4/26) ・ 10月～11月頃(2/26)  
 ・ いつでも良い(7/26) ・ 回答なし(13/26)
- ②内 容 ・ 受講生の近況(3/26) ・ 現場の体験談(3/26) ・ その時の社会問題になっていること(1/26) ・ 回答なし(19/26)

8. 今後、訪問介護員及び福祉関係者を対象とした講演会を開催したいと思います。開催時期はいつ頃がよろしいですか。また、講演内容はどんなものがよろしいですか。

- ①開催時期 ・ 4月～5月頃(3/26) ・ 10月～11月頃(2/26) ・ いつでもよい(5/26)  
 ・ 回答なし(16/26)
- ②講演内容 ・ 介護の体験談(2/26) ・ 福祉施設や在宅介護の現場の状況(5/26)  
 ・ 介護保険法について(1/26) ・ 回答なし(18/26)

9. 今後要望すること。自由にお書きください。

- ・ 2級に関しては、再度、実施していただき多くの方が自分を見つめて、老後に少しでも対応できるようにと思います。(64才女性)
- ・ 今回の講習を全て終了するために、周囲の方に協力をいただき、かなりの無理を通してやっとのことでした。もし、今後、このような講義を実施する時は、1、2日の欠席は補講が出来る体制であってほしいと願います。(46才女性)
- ・ 今後も訪問介護員養成研修講座をやって欲しいと思います。(42才女性)
- ・ 1日くらいの欠席は補講があると良いと思います。(63才女性)
- ・ あと片付けは班分けをして、受講生がローテーションで行った方が絶対に良いと思う。(21才男性)
- ・ 3年後、介護福祉士の資格を取る時に試験の為の講座を開いていただけたらと思います。(46才女性)
- ・ 来年も訪問介護員養成研修2級講座を行って欲しいという声をきいています。(52才女性)
- ・ 知人に、次回には、是非、受講したいと希望する者が何名かおられます。(45才女性)
- ・ 事務局の皆さん、土・日のたびありがとうございます。求人情報などもいただけるとありがたいです。(42才男性)

- ・ 実習をしてみて、本当に大変な仕事だと痛感させられました。実習先の皆様にはお世話になり、ありがとうございました。また、そういう時がきたら、何事も動じず落ち着いて勉強したことをいかせたらいいなと思いました。(43才女性)

以上